施設の中はもちろん町や自然の中にも、至る所に出会いの可能性が

湯河原〈ゆうゆうの里〉 **北村 雅俊 様（74歳）**

令和6年6月　一人入居

新宿区内の小学生に「出前授業」をする
森林インストラクターの北村様

「航空会社に入る！」と有言実行

東京浅草の出身。小学校４年の時、父の転勤を機に家族で北海道に引っ越しました。中学生になる時父の次の転勤が決まりました。父は私に「北海道に残った方が良い」と言うので、中学校一年から函館の下宿生活を体験しました。高校時代はフォークソングのバンドを結成、ギターを担当。友人にも恵まれ楽しい青春時代でした。大学卒業と同時に航空会社に就職しました。大学の友人に「航空会社に入る！」と大風呂敷を広げてしまったからです。もちろん、そのために必死で努力しました。その会社には定年迄43年間を勤め上げました。その半分は運航乗務員の勤務条件や仕事の環境を整える役目です。高度成長のもと日本の空も大きな変貌を遂げた時期でした。

雇用延長で「歴史展示室」を完成

雇用延長となり、創業者に敬意を表するためだったのか、大きな変貌を遂げた業界を目の当たりにした自分たちがやるべき仕事と感じたからか、「歴史展示室」を作らなければと思い立ちました。そこで各地に散る同僚や後輩たちに、倉庫に眠る「お宝文化財」をかき集めてもらいたいと頼みました。すると昭和の懐かしい搭乗券やら時刻表、特別席で使用した食器類、ジャンボジェット機の訓練シミュレータの計器盤、伊丹空港で使っていた搭乗案内表示板（パタパタと音を出しながら回転する便名・出発ゲート番号を表示する機器）等、ざっと数百点が届きました。こうして60年の歴史を集めた展示室が完成しました。協力してくれた各地の職場の皆さんと繋がった「コミュニケーションの魔法」を感じた瞬間でした。

自作の円空仏と

決め手は、７回の見学や体験入居で「ここなら住める！」と自信が持てたこと

父は75歳で逝きましたが、母はそれにもめげず、しっかりと自立生活を続けていました。ある日ゴールデンリトリーバーの散歩の途中に、大腿骨折をして要介護状態に。92歳の時でした。自宅から自転車で５分のホームに入居してもらったおかげで、私は仕事の合間に母に会いに行くことができました。99歳で看取りました。以来、これから年齢を重ねて行く自分をどうしたら良いのか、自分でできることを考えようと思いました。本を読み色々な施設を訪問。医療的支援や介護体制を確認するとともに、日常の雰囲気を知るため入居者と必ず会話すると決めました。ここは７回位見学や体験入居をして、露天風呂やラジオ体操で入居者のお話がたくさん聞け、バッチリでした。施設の規模が大きいこともよし、入居者と職員との繋がりがあると実感し、「ここなら住める！」と自信を持つことができました。

ここで暮らし始めて新しい出会いにワクワクしています

入居してからの楽しみは露天風呂とラジオ体操。それにテニスを始めて週４回通っています。南熱海のコートで知り合った方が入居者でした。湯河原のコートでも知り合った方がいます。外で繋がったのです。それだけ、施設の中だけでなく外にも出会いの機会があります。浜辺へ降る坂道には小鳥たちの囀りが溢れています。入居者の方が「あれはコジュケイ」とか、鳥の名前を教えてくれます。裏山にはハコネサンショウバラの自生地があると、入居者の植物博士に教えていただきました。ここは至る所にコミュニケーションの可能性があります。私は60歳から勉強を始め森林インストラクターの資格を取り活動をしています。また10数年前、円空の慈しみの心に魅了され「円空彫」を師匠に学び、彫り続けています。これらは私の心の財産です。この活動で生まれる出会いも大切に、ワクワクする時間を過ごしたい。